太古、有害な放射線の危険がなくなって地球上に生命が誕生しました。人類は核兵器や原発

を開発し、それらすべてを死滅させることができるだけの 核物質をここ 100 年足らずで作りだしてしまいました。

そして 2000 回以上に及ぶ核実験や原発事故によって、それ までこの世になかった人工の放射性物質を、私たちは日常的 に摂取するようになりました。その一部は体内に蓄積されて

放射線 二重鎖切断 免疫力の低下

放射線を放ちます。(内部被ばく)

チェルノブイリでは原発事故後、年が経つ につれ、世代をまたがって住民の健康が悪化して います。線量が低くても長期間被ばくし続ければ深刻

80

40

健康

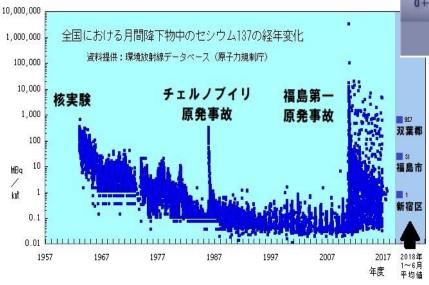
慢性疾患

な健康被害を招く可能性を 示唆しています。

そして 2011年、日本中が恐

怖に震えた福島第一原発事故。大量の放射性物質が 東日本に降り注ぎ、今も土壌に沈着しています。

食品などの放射線量は東日本でも全体的にかなり 下がってきていますが、未だ高いものがあります。 健康影響なども含め、今後も注視が必要です。



ETV特集「ウクライナは訴える」より ( "Twenty-five Years after Chernobyl Accident" [83, 37) 水道水 100000 <sup>米</sup> 最大値 Bq/L) (福島県) 10000 ム137濃度(m 1000 平均值 20,000 倍 (福島県以外) 100 10 1/10 1 0.1 10倍 0.01

2011年の値は3月~4月末の値の平均値(福島県を除く)、2012年以降は国内平均値

資料提供:原子力情報資料室 www.cnic.jp/7946

|965~86年は東京の値、1987~2010年は国内平均値

被曝した親から生まれた世代の 健康な子どもと慢性疾患を持つこどもの割合

事故から20年後

78%の子どもに慢性疾患 2011年ウクライナ政府報告書

福島第一原発事故で何万人もの人が故郷を失い今なお

多くの人が放射能に脅えて暮らしています(放射性物質「不安」66% 朝日新聞・福島放送 福島県民共同世論調査2018年2月)



事故当時、放出されたセシウム 137 は広島原発 168 発分 (2011年8月 政府発表) そのうち国土に落ちたのはわずか 1kg ほど。事故を起こした 1~4号炉にはま だ 200kg 超のセシウム 137 があります。事 故が収束する見込みはなく、汚染水は今も

洩れ続けています。そして世界には 440 基の原発があります。 事故直後の信息

(年度)

原発や核兵器(=nukes)から、いのち、くらし、いきもの(=life)を守りましょう。

Save life from nukes 【解説】 編集に際し、原子力資料情報室 に助言いただきました。心より 御礼申し上げます。2018年8月 編集責任 平野恵司



子どもたちのしあわせな未来のために 核のない持続可能な世界を



http://save-life-action.org/ ☎080-5325-7128(平野) in fo@save-life-action.org

